

21世紀の日本のかたち（47）

－東日本大震災の復興に向けて（6）－

青森県復興ビジョン



戸沼幸市
 <(財)日本開発構想研究所 理事長>

1. 青森県の被災

青森県は今度の大震災では岩手、宮城、福島
 の3県に比較して人的被害は軽微でしたが、
 それでも八戸市、おいらせ町などは物的、経
 済的に相当な打撃を受けました。

青森県の被害状況

被害総額	1,319.4億円(判明分)
人的被害	死者・行方不明者4名 重軽傷者47名
住家被害	全壊310棟 半壊851棟
非住家被害	全壊508棟 半壊685棟
参考	
最大避難人数	24,332人(3月12日)

資料：青森県復興対策本部（平成23年11月7日発表）

八戸市周辺のインフラ被災概況



資料：「青森県復興プラン ～東北の元気、日本の元気を青森から～」(青森県復興対策本部) 平成23年5月

震災発生から8か月が過ぎましたが、10月
 初旬に東京・新青森間全線開通(2010年12
 月4日)した東北新幹線「はやて」に東京駅
 から飛び乗って、八戸市と青森市を訪ねまし
 た。八戸までは3時間10分でした。

3.11の東日本大震災で、青森県として被害
 の大きかったのは、商工施設、港湾関係、次
 いで太平洋岸から下北半島沿岸の18漁港の施
 設でした。このうち八戸は古くから日本有数
 の漁業基地として発展してきた都市です。加
 えて、全国総合開発計画(全総 昭和37(1962)
 年)で、新産業都市の指定を受け、臨海工業
 基地として北東北の存在感ある都市に成長し
 てきました。この八戸市の被災が大きかった
 のです。

被害を受けた18漁港



資料：青森県資料により作成

八戸市沿岸部の市街地では 3.11 の地震津

波によって被災した家屋 1,000 棟以上、避難人口 9,200 人と報じられています。

北東北における国際物流拠点港である八戸港は、津波による防波堤の損壊など港湾施設が大きな被害を受け、臨海部の工場群も相当のダメージを受けた様子が報じられました。

八戸漁港では、魚市場、荷捌き施設、多くの漁船が被害を受け、合わせて水産加工の機械設備に大きな被害が生じ、水産業の生産、加工、流通機能が著しく低下しました。

私の訪れた時点では、漁港も魚市場も八戸港も見た目は復旧が進んでおり、賑わいが甦っております。とはいえ、この地域の水産業、農業、工業、観光業など、八戸をとりまく経済基盤の沈下は大きく、復旧そして復興は容易ではないと、地元の方々は異口同音に話しておりました。八戸市の復旧、復興について、現地で市の職員の方から話を伺うことができました。

■八戸市復興計画(平成23年度～平成32年度)

「より強い、より元気な、より美しい八戸」が復興計画の標語―理念となっています。強さや元気に加えて、美しい風景の持続と再生を願うのは、北国の港町八戸ならではのものと得心がゆきます。

八戸の港には、国指定天然記念物のウミネコ繁殖地として全国的に知られているかぶしま蕪島が夕日を浴びてくっきりと浮かび上がっております。

目標として、

- ・安全、安心な暮らしの確保
- ・大震災をバネにした地域活力の創出
- ・北東北における八戸市の拠点性の向上
- ・災害に強いまちづくりの実現

を掲げています。

被災が大きかった岩手、宮城、福島の3県

の都市・地域と比較して、八戸市は立ち直りが早く、復旧と並行して復興が直ちになされていると見受けられます。

大震災を逆バネにした地域活力創出、北東北における拠点性の向上に直ちに対応する意欲が感じられます。八戸港から他被災地への物資の供給もなされているほどです。さらに、太陽光パネル（メガソーラ）によって来年1月の発電を目指す、と八戸市長は述べています。そして、

- ・生活、雇用環境
- ・地域経済
- ・都市基盤
- ・防災体制

と課題をしぼった行動計画―復旧2年、再生3年、創造期5年の成果が期待されます。

八戸市の次に青森市を訪れました。県都青森市は今度の地震では被災を免れ、被災地に対する支援活動を積極的に行っています。

新青森駅周辺の市街地整備はこれからというところですが、青森駅周辺は市街地がコンパクトに整備され、建物も更新されてモダンな都市景観を見せておりました。青森市は北東北の積雪地帯にあつて、省エネ型の「コンパクトシティ」づくりを標榜する都市です。

青森市は津軽海峡をはさんで対岸の函館とは昔から結びつきが強く、「青森・函館ツインシティ」「青函インターブロック構想」もあります。

東北新幹線が新青森まで全通したことを機会に、北の拠点として新しい展開を目論んでいると見受けられます。

2. 青森県の課題と青森県復興ビジョン

青森市の宿でたまたま地元紙、東奥日報で下北半島の原子力発電所問題特集記事を目に

しました。折しも開会中の青森県議会は、下北半島の原発、核燃料サイクルを含む原子力政策について、国に原子力政策の「早期提示」を求める議案を賛成多数で可決したとも報じておりました。

同じ紙面に、「函館、大間原発凍結へ動く」という記事があり、建設中の大間原発（青森県下北郡大間町）から30キロ圏内の函館市や、北海道南の町々が建設凍結を申し入れたとありました。その直後、原発事故の際、避難や屋内避難を含む防災対策区域を8～10キロ圏から30キロ圏に広げるという防災区域の拡大案を原子力安全委員会が打ち出したと報じられました。

下北半島と原発との関わり
青森の原発立地



大間原発の近況



資料：「最短23キロ「遮る物ない」函館、大間原発凍結へ動く」（東奥日報 2011.10.6）

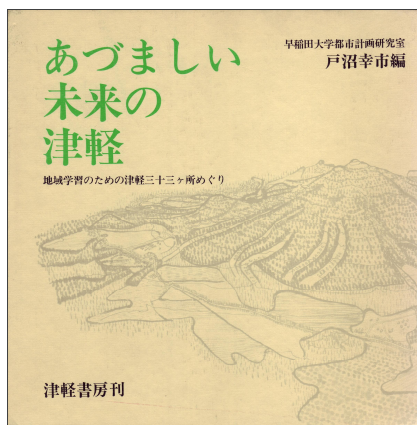
下北半島は大間原発の他に、東通り原発、六ヶ所再処理工場もあり、今後のエネルギー問題、原発問題が集約されている地域です。

青森県は東北各県と同様、人口減少、少子高齢化の傾向がはげしく、加えてエネルギー問題、原発問題といかに取り組むかが当面する県政の大きな課題です。青森県の3.11の震災対応はこれと大きく関わっています。

久しぶりに青森県庁の政策企画部を訪ねて、3.11後の青森県の復興プランを説明してもらった機会を得ました。

私自身、青森県企画部の「津軽開発構想調査」（1977年～81年）に関わった経緯があります。これをもとに『あづましい未来の津軽』と題して、中学生、高校生にも読める絵入りの津軽地域学の教材を作り、地元の津軽書房（弘前市）から出版しました。

あづましい未来の津軽



資料：「あづましい未来の津軽 地域学習のための津軽三十三ヶ所めぐり」（早稲田大学都市計画研究室戸沼幸市編、津軽書房刊）昭和57年9月25日

この時の一連の調査作業の折に、青森県企画部の方々とは大いに議論しました。今回、当時の若手が復興プランづくりの責任者になっており、親しく話を聞くことができました。

理念：「東北の元気、日本の元気を青森から」
策定の視点：「生活再建」「産業復興」「インフラ復興」

この視点から青森県基本計画（2009～2013）「未来への挑戦—情熱あふれるふるさと青森づくり」をベースにして、八戸などの被災地

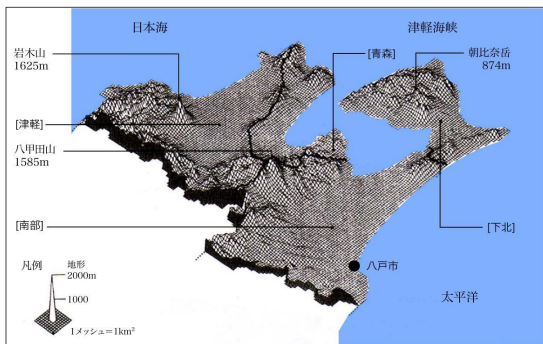
の復旧から復興へと問題点を抽出し、今後の国の予算や制度設計に提言を試みています。

この中で、地域活性化総合特区—再生可能エネルギー、戦略的クリーンITパーク設立構想特区などの提案が興味を引きます。

青森県復興プランは、岩手県、宮城県そして福島県と比較して被災が少なかったことによる余裕が感じられます。あえて東北復興への貢献として、被災3県への人的支援の継続を謳っています。これには三沢の自衛隊と米軍が間髪を入れずに緊急災害支援に動いた実績が重なっております。

青森県は災害時、太平洋と日本海側の互いに補完し合う地理的条件を持っています。更に津軽海峡を挟んで北海道南と対面しています。物流のグローバル化の中で、北東アジアにおける日本海の役割は近年ウェイトを増し、コンテナ輸送は日本海側の港へ、更には津軽海峡を通して太平洋側の港へ運ぶケースが増えているのです。

青森県のメッシュ地形図



注：面積 9,644.54 km²
 総人口 1,363,034 人 (推計人口 2011年10月1日)
 資料：「平凡社百科事典の図版に筆者加筆」

青森県はこの立地条件を生かし、いち早く被災3県への人的支援に廻りました。東北、太平洋岸に面する岩手、宮城、福島の大きな被災地に対して、青森、秋田、山形、新潟の4県の知事が「東北全体を俯瞰した復興に向

けて一東日本大震災の復興に関する提案」(平成23年5月31日)を発表したことは心強いことです。ここでは東北全体を視野に入れて、

- ・太平洋側と日本海側の相互補完のための公共インフラの整備
- ・エネルギー確保、供給体制の整備 (再生可能エネルギーの普及促進など)
- ・産業の振興・活性化
- ・防災機能の強化 (危機管理、日常時の交流など)

などを提案としています。青森県共々に被災地の復旧、復興を大きな支援の輪で包み込んでほしいものです。

青森県として「東北の元気、日本の元気を青森から」という意気込みを、生命力溢れる「青森ねぶた」の歌と踊りと太鼓に乗せて、復旧・復興に向かう東北、そして沈滞気味の日本に響かせて欲しいものです。

【参考資料】

- ・「八戸市復興計画 (平成23年度～平成32年度)」(八戸市) 平成23年9月26日
- ・「青森県基本計画 (2009年～2013年) 未来への挑戦」(青森県企画政策部) 平成21年3月
- ・「青森県復興プラン」(青森県復興対策本部) 平成23年5月
- ・「青森県復興プランの取組状況」(青森県復興対策本部) 平成23年9月12日
- ・『あづましい未来の津軽 地域学習のための津軽三十三ヶ所めぐり』(早稲田大学都市計画研究室 戸沼幸市編 津軽書房) 昭和57年9月25日

(2011. 11. 15)

夕暮れの八戸港



資料：戸沼撮影